

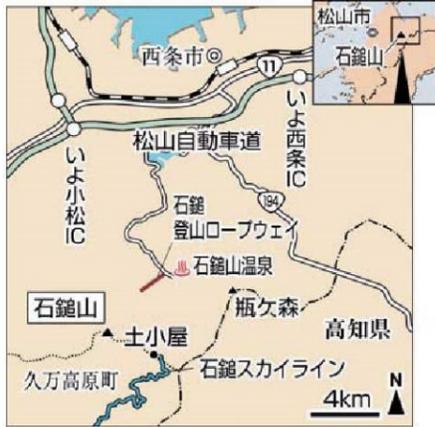
# 霊峰の頂見据え

西日本最高峰の石鎚山（1982  
 年）。約1330年前に修験道の開祖  
 ・役行者（えんのぎょうじや）が開山  
 し、空海も修行したと伝わる。山岳信  
 仰の山として知られ、「お山開き大祭」



①

の7月1〜10日には全国から信徒が訪  
 れる。大祭から約1カ月後の8月上旬  
 未来の信徒と期待される県内外の小学  
 生から大学生までの約50人と霊峰の頂  
 を目指した。



## 石鎚登山 子どもら鎖握り締め



ほぼ垂直な「三の鎖」の岩場を登っていく石鎚青少年錬成会の参加者

50年以上続く「石鎚青少  
 年錬成会」は、信徒の子ど  
 もらが数日間の共同生活や  
 石鎚登山を体験する。過去  
 に参加し、今回は先達の石  
 鎚神社権禰宜（こんねぎ）  
 の佐々木規人さん（48）は  
 「友達をつくり、いい思い  
 出と一緒に再び石鎚山に戻  
 ってきてほしい」と話す。

錬成会では「表参道」と  
 言われる西条市側のルート  
 で山頂を目指す。ロープウ  
 エーを下り、約20分歩  
 と信徒の宿も並ぶ石鎚神社  
 成就社に到着。安全祈願の  
 神事を終えた小学4年〜大  
 学生が神門をくぐり、霊峰  
 のお膝元に入った。  
 最初の約1キは緩やかな

下り坂が続き、ブナなどの  
 原生林が夏の暑さを忘れさ  
 せてくれる。白装束と鉢巻  
 きをした子どもも、元気  
 よく「なんまいだー」と声  
 を響かせるが、八丁からは  
 本格的な登りが始まる。

前社ヶ森への急坂の階段  
 は、いくら上っても終わり  
 が見えない。徐々に口数が  
 少なくなっていく。かつて  
 信徒らが一晚過したとい  
 う中間地点の夜明けし峠  
 は、晴れていれば石鎚山を  
 一望できるが、この日は霧  
 の中。子どもの半数近くが  
 石鎚初登山で、ゴールが見

えず不安そうな子を先輩が  
 励ます。  
 ここからが石鎚山のヤマ  
 場だ。山頂までの険しい岩  
 場の3カ所に見たこともな  
 いような太い鎖が掛かる。  
 最初の「一の鎖」は全長  
 33メートル。子どもたちは「えい  
 えいおー」と気合を入れ、  
 鎖をしっかりと握りながら慎  
 重に登っていく。中には身  
 軽にすいすいと上がる子も

### 疲れ癒やす 白濁色の湯

石鎚山へは久万高原町に  
 ある県道石鎚スカイライン  
 を通り、終点の土小屋（約  
 1500メートル）からも登るこ  
 とができる。ササ原や白骨  
 林などを眺めながら尾根沿



登山の疲れを癒やして  
 くれる石鎚山温泉京屋  
 旅館の白濁色の湯

いの整備された登山道を進  
 むと、「二の鎖」の下で成  
 就ルートと合流。近くには  
 環境配慮型トイレや休憩所  
 もある。山頂までは約4・  
 6キロ、およそ2時間半。  
 頂上山荘がある弥山から最  
 高峰の天狗岳までは絶壁の  
 上を15分ほど歩く。  
 ロープウエーで降りると  
 石鎚山温泉京屋旅館が登山  
 の疲れを癒やしてくれる。  
 四国では珍しい白濁色の湯  
 は疲労回復や美肌効果など  
 があるとされ、温度は夏場  
 は40度、冬場は42度ほど。  
 湯船からも美しい緑と爽や  
 かな溪谷美が楽しめる。

午前10時開店。終業時間  
 はロープウエーの最終便に  
 合わせている。年中無休で、  
 日帰り入浴は大人500  
 円、小学生以下300円。  
 JR伊予西条駅からバスで  
 約1時間。

おり、初めてだった西条市  
 神戸小学校4年伊丹実玖  
 さん（9）は「疲れたし、足も  
 痛いけど鎖は怖くなくて簡  
 単」とけろり。

「二の鎖」（65メートル）を迂  
 回（うかい）すると、頂上  
 広場へと続く「三の鎖」（68  
 メートル）のほぼ垂直な岩壁が立  
 ちはだかる。佐々木さんが  
 「冷静に勇気を持って」と  
 中学生以上の約20人に声を

掛ける。鎖の輪の中につま  
 先をねじ込み、後ろを振り  
 返るとあまりの高さに肝を  
 冷やす。手を離さぬように  
 汗をぬぐって上を目指し、  
 成就社から約4時間かけて  
 霧に覆われた弥山にたどり  
 着いた。

山頂周辺は四国の山なが  
 ら、シコクシラベなど亜寒  
 帯林が広がる。参加者は夜  
 になると風の音に耳を澄ま  
 せて星空を眺めながら、自  
 然の息吹を感じていた。錬  
 成会のリーダーを務めた愛  
 知県立名古屋南高3年稲熊  
 真子さん（17）は「いろんな  
 人に支えられて登ってい  
 る。日々のありがたさが分  
 かってよかった」と目を輝  
 かせた。

☆ ☆ ☆  
 8月11日は「山の日」。  
 全国の夏山の表情を温泉や  
 食の魅力を紹介する。  
 （愛媛新聞）文・写真 竹  
 下世成

全国13地方紙  
 共同企画参加社  
 愛媛新聞社、東奥日報  
 社、岩手日報社、秋田魁  
 新報社、山形新聞社、北  
 日本新聞社、岐阜新聞社、  
 福井新聞社、徳島新聞社、  
 四国新聞社、大分合同新  
 聞社、長崎新聞社、宮崎  
 日日新聞社